

⑦分かりやすい指示を出そう！

毎日の生活の中で、保護者や先生は様々な指示を出しています。

- 「ボタン閉めて」
- 「お片づけして」
- 「パジャマに着替えておいで」
- 「おトイレ行って、お着替えできたら遊んでいいよ」
- 「オニにタッチされた人はその場で座りなさい」



生活面のことから、集団生活のルールまで、子どもはさまざまな指示を聞いて動かなければいけません。発達が気になる子どもも同じです。しかし、中には言葉の理解が難しい子どももいます。特に、就学前は個人差が多いものです。そのため、子どもに合わせた指示を出してあげることが大切です。

例えば「お片づけして」という言葉が難しい場合には「つみき、箱に入れて」など具体的な言葉にします。「おトイレ行って、お着替えできたら遊んでいいよ」という指示は、「おトイレ行って」という指示を出し、おトイレから戻ってきたら「お着替えして」という指示を出し、お着替えができたなら「遊んでいいよ」と指示を出すといったように、3つに分けてその都度指示を出すようにします。また、「オニにタッチされた人はその場で座りなさい」という指示は、「オニにタッチされた？されてない？」と確認してから、「座って」と指示を出すようにします。このように、ほんの少しの工夫で子どもが指示に従うことができるようになります。

子どもがうつむいていたり、どこか遠くを見ているときに指示を出しても聞こえていないかもしれません。さらに、指示を出す前に注意を引くことも大切で、「こっち見て」「お話するよ」「ちゃん」などの呼びかけを忘れないようにしましょう。もちろん、明瞭に発音よく話すことも大切です。



ルール⑦：子どもに合わせた言葉と方法で指示を出す！

最終チェック

その子にとって具体的で分かりやすい言葉を使っていますか？

目を合わせて指示を出していますか？

指示を出す前に「こっちみて」「ちゃん」などの呼びかけをしていますか？